



# よほろ



舞鶴市立与保呂小学校  
学校だより  
2月号  
令和3年1月29日

## 冬の植物にならう

1年中で一番寒いとされている「大寒」は二十四節気の一つで、今年<sup>だいかん</sup>は1月20日でした。期間としての意味もあって、1月20日から2月3日まで、大寒のこの日から次の節気の立春前日までを指します。今が一番寒い時期となります。

大寒翌日1月21日もとても寒い日で、気象庁発表の舞鶴地域の最低気温は-2.4℃となっていて、子どもたちの通学路は一面霜に覆われ、まるで雪が降ったようでした。空気中の水蒸気が昇華して氷の結晶になる霜は、冷気のたまりやすい場所で、風が穏やかな日に発生しやすいそうです。子どもたちが歩く道のりの気温はもっと低かったのではないかと思います。

そんな寒さの中、こぶし学級の子どもたちがさくら農園で2年生と一緒に育てていた佐波賀だいこんを収穫しました。「翌日の給食に入れてもらおう」と引いた1本はなんと3.7kg！新生児よりも重たい、太く立派な大根でした。子どもたちは霜のついた大根を一生懸命引き、また、冷たい水で洗っていました。とても素敵な姿でした。

野菜は寒さや霜にあたると葉が傷む(葉焼けが起こる)といわれる一方で、「冬野菜は霜にあたると甘くなる」と聞きます。冬野菜が甘くなるのは、寒さで凍結しないよう体内から水分を無くして糖度を増していくためだといわれています。通常、水は0℃で凍りますが、糖分が含まれている水はそれ以下にならないと凍りません。溶けている糖分の量が多くなればなるほど、凍らなくなります。冬野菜たちは、誰に教わるわけでもなく自然の摂理を知って順応させているわけです。

冬野菜は霜にあたると甘くなる、それは純粋に糖度が高くなるということもあるのかもしれませんが、それ以上に野菜のそうした強い生命力から、食べると甘くおいしく感じているのかもしれませんが。

野菜だけではなく、職員玄関前のプランターのビオラやパンジーも、霜でぐったりしているように見えていても、日差しの中でまた元気に花を咲かせていたり、枯れたように見えている木の枝の先端にはちゃんと芽がついていたりしています。まだまだ寒い日が続きますが、たくましい植物たちを見習っていきたいと思います。

京都府下に緊急事態宣言が出され、舞鶴市内においても感染者が発表されるなど、新型コロナウイルス感染症はなかなか収束に向きません。しかし、以前の学校だよりも書いたように、正しく知って正しく恐れ、「感染した人が悪いのではありません。早く治るように励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えましょう。」という萩生田文部科学大臣の言葉を今一度心におきたいと思います。

今できる感染防止策を精一杯行いながら、学習活動を進めていきます。保護者の皆様、地域の皆様のご協力・ご支援をお願い申し上げます。

校長 西井 佳寿美  
教職員 一同



### ありがとうの花

2月21日に予定されている「6年生を送る会」に向けて、実行委員会が動き始めました。例年、この送る会では全校合唱で『ありがとうの花』という歌を歌います。その2番に“ぼくらの夢は みんなと一緒に歌うこと あったかい手をつなぎ みんなで歌うこと”という歌詞があります。このコロナ禍の中、大きな声で歌うことも手をつなぐことも我慢の毎日です。一日も早くこの夢がかないますように…



ありがとうの花/作詞:坂田おさむ 作曲:坂田おさむ



<一面霜のグラウンド>



<畑の佐波賀だいこん>



<なんと3.7kg!>